

# 校長通信 (教職員版) 第10号 H29. 3. 2

私立の進学校 - 高槻中学校・高等学校の

「アクティブ・ラーニング公開研究会」に行ってきました！ - その4

## 【6】フリーライダーを出すな！

さて、今回でこの研究会の報告も最終にしたいと思います。今回は、森先生の報告でとても参考になることがあったので、その点を中心に報告します。それは

「フリーライダーを出すな！」

ということです。「フリーライド」とは、いわゆるただ乗りです。この言葉は、

「ある集団がメンバー同士の貢献によって付加価値を産み出すとき、自分は何も貢献せず、他のメンバーに貢献させておいて、得られた付加価値の恩恵にはあずかる人のことを、集団の利益に“タダ乗り”する人という意味で「フリーライダー」(以上、日本の人事部HPより)

といいます。これをALのグループワークに当てはめると、討論にはあまり参加しない、または参加しているふりをしているけれど、実質的に頭がアクティブになっていない生徒の事を意味します。そういう生徒が外化＝グループワークの時に、よく出てきます。だから、森先生は、この点に注目して、「如何にしてフリーライダーを出さないか？」の研究を実証的にされています。今回も高槻中学校・高等学校を舞台にその検証をされていますので紹介します。

### (1) 森先生の実証的検証

今回の検証は、中学1年生、国語の授業で、「空中ブランコ乗りのキキ」(別役実 著)という教材です。2016年6月6日の授業とそのわずか4日後の6月10日に、同じ男子3人がどのようにグループワークを行い、ど

のように変化したのかを検証されています。

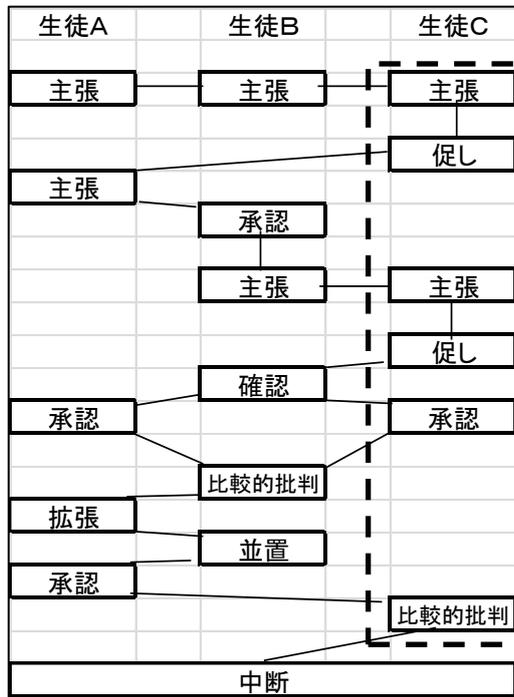
検証方法は、彼ら3人のグループワークをビデオで撮影し、誰がどのタイミングでどのような発言をしたのかを細かく検証する方法です。この検証方法は、Berkowitz&Gibbs(1983)を基盤に、発話コードを使って認知のプロセスを発話の構造によって分析する方法なのですが、詳しいことは正直わかりません。当日も時間が無かったので、詳しい説明は省略されました。少しだけ、その発話コードを紹介します。左の表です。ここに出てくるトランザクションという言葉は、

発話コード	
表象的トランザクション	
課題の提示	話し合いのテーマや論点を提示する
フィードバックの要請	提示された課題や発話内容に対して、コメントを求める
正当化の要請	主張内容に対して、正当化する理由を求める
主張	自己の意見や解釈を提示する
言い換え	自己の主張や他者の主張と、同じ内容を繰り返して述べる
並置	他者の主張と自己の主張を、並列的に述べる
承認	他者の意見を受け入れる
提案	新たな視点を提供する
状況の確認	課題に関するメンバーの共通認識を作る
理解の整理	自己の理解を言語化して確認する
確認	他者の意見を補強・確認する
質問	情報の収集
感情の表出	他者の意見に関する感情表現
援助の要請	他者にサポートを依頼する
説明	他者に情報や説明を求める
促し	他者の発言を促す
検討	他者の意見の内容を検討
操作的トランザクション	
拡張	自己の主張や他者の主張に、別の内容をつけ加えて述べる
比較的批判	自己の主張が他者の示した主張と相容れない理由を述べながら、反論する
精緻化	自己の主張や他者の主張に、新たな根拠をつけ加えて説明し直す
統合	自己の主張や他者の主張を理解し、共通基盤の観点から説明し直す
ゆらぎ	自己の主張が他の根拠によって揺らぐ
批判的提示	これまである議論を批判的に検討し、新たな視点を提示する

「商取引、売買、執行、取扱、議事録などの意味を持つ英単語。ソフトウェアの処理方式の一つで、互いに関連・依存する複数の処理をまとめ、一体不可分の処理単位として扱うことをトランザクション処理と呼び、そのような処理単位をトランザクション」(IT用語辞典より)

の意味です。

この発話コードを用いて、6月6日の3人のグループワークを検証したのが、次の図です。



この図では、わかりにくいのですが、3人のうち、生徒Aと生徒Bは、それなりに発言するのですが、生徒Cの発言は、具体的に

- 表示すると、
- 「どうぞ」
- 「はい」
- 「団長というよりかおばあさんが…（聞き取れない）」
- 「前のAとBに発言を促すように手を差し出す」
- 「関連図を見ながらシャーペンで机をたたく」
- 「話すのをやめる」
- 「方杖ついて二人を見ている」

という内容です。生徒Cはフリーライダーになってしまっています。また、この班のグループワークも途中で中断してしまいます。この様子を見ていた森先生は、その様子を次のように記しておられます。

- ・みんな一斉に主張する
- ・他者の発言を遮る
- ・発言が偏る
- ・怒鳴り声に近い大声
- ・思考にも影響

このようになった原因を森先生は、

- ・課題が思考の拡散を強めている？
- ・議論のルールがない
- ・既有知識だけの意見交換（表象的トランザクション）
- ・時間不足
- ・内化の不足

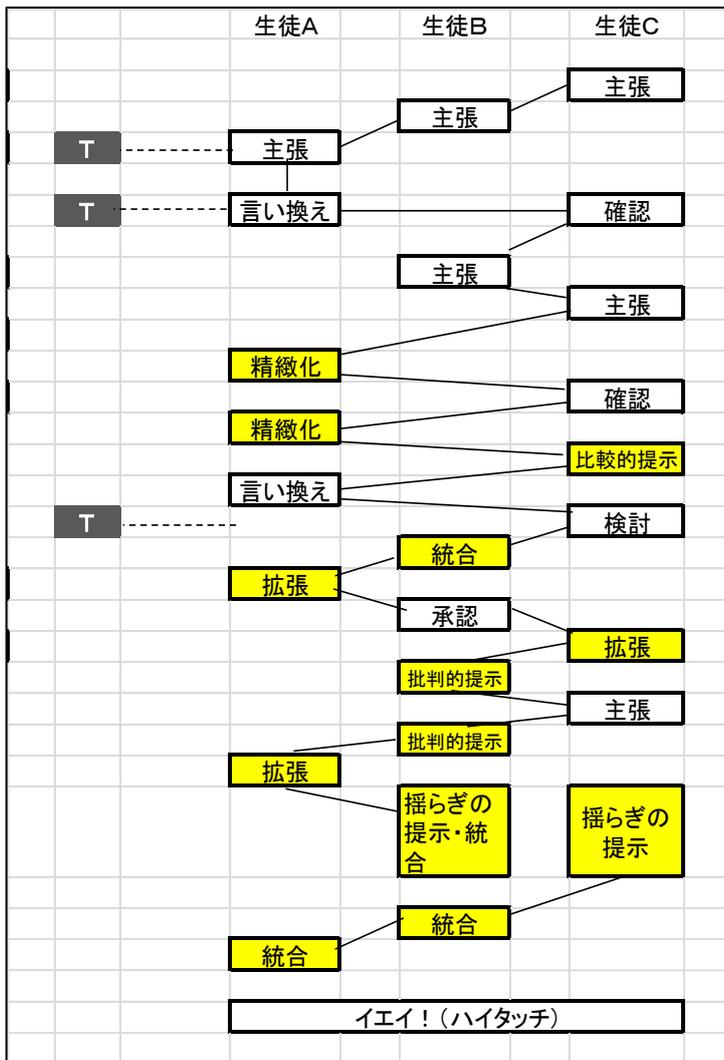
と指摘されています。実は、この6月6日のときのワークは、次の様な感じで行われています。

	6月6日	6月10日
問い	人物関連図は正しいか？	白い大きな鳥は結局なんだったのか？
生徒の活動	グループ	個人 - グループ - 個人
時間	10分程度	15分程度
補助教材	なし	ワークシート
ワーク中の教師の介入	特になし	タイムマネジメント 活動の指示

- この反省をうけて、わずか4日後の6月10日の授業では、上の表のように行いました。違いは何かというと、
- ①個人 - グループ - 個人というワークをとり、個人への内化をベースに置いたこと。
  - ②教師によるタイムマネジメントを行い、場合によっては活動の指示を行ったこと
  - ③個人の内化やグループでの外化を促すためのワークシートを用意したこと

です。これにより、どのようなグループワークが行われたかを示すのが、裏面の図です。その結果、この3人の男子のグループワークは、飛躍的に質は向上し、最後はハイタッチまで行き着くほど満足度も向上したのです。森先生は、この10日のグループワークを観察され、右のように記されています。

- ・個々の意見の傾聴・まとめ
- ・内化の強化
- ・本文に基く根拠ある議論 → 操作的トランザクション
- ・統合の出現
- ・満足度の向上



そして、森先生は、まとめとして、生徒がより脳をアクティブにし、フリーライダーを出さないグループワークのまとめとして、

＝まとめ＝

- ・個人をベースにする協働学習の有効性
- ・理解を深める装置（ゆらぎ）としての協働学習のあり方
- ・統合へのプロセスによる思考の深みの表出
- ・教師による適切なスカフォールディング

を示されておりました。因みにここで聞きなれない言葉である「スカフォールディング」とは、次のような意味です。

「足場作り」「足場かけ」等と訳される。ヴィゴツキーが唱えた発達の最近接領域説では、大人（養育者、教師、指導者など）や、より発達の進んだ他の子ども等による、適切な指示、援助を与えること（足場を作ること）の重要性が示唆されている。スカフォールディングは、指導する側に決まったスケジュールがあり、その通りにやらせる、というのではなく、指導者が、子ども（学習者）が今どういう状態にあり、その発達の最近接領域がどこにあるのかを見極めて、最良の環境を与えることを指す。具体的には、子どもが自分のできる場所についてはあまり介入せず、子どものできないことを補い、発達を手助けすることであり、そ

れによって遂行できるレベルの課題が与えられた時、子どもの発達はおのずと起きるとされる。（日本語教師のページより）

いきなりグループワークをやりなさいと言っても、生徒は無秩序になってしまうということだと思います。そこには、

- 本質的な問いがあり、
- その問いに対する個人ワーク（個人の内在化）があり、（←これが大事）
- 議論に関する適切なルールがあり、
- 議論を深めていくワーク教材があり、（ここで、外化を通してより深い内化が行われる）
- 教師の適切な介入がある

ということだと思います。

なにぶん、短時間でのご発表だったので、森先生自身も語り切れていない所が多分にあったと思います。しかしながら、ここまでグループワークの生徒の活動内容を精緻に分析していただけると、さすが中身の濃いDALが展開できると思いました。さらに付け加えると、この授業を実施している「高槻中学校・高等学校の先生もすごいな・・・」と思います。本気でないとできませんよね。森先生の活動について、ベネッセ発行のVIEW21の2月号に掲載されていたので、併せて紹介します。ご覧ください。関西大学での教職員向けALの研修会の様子です。

以上、長くなりましたが、2月18日の高槻中学校・高等学校の第1回アクティブ・ラーニング公開研究会の報告です。

## 【おまけ】ALを行うと受験指導に間に合わない？

さて、紙面が余ったので、少し、ALについての誤解の克服を行いたいと思います。ALに対する誤解の中で多いのが、「ALをしていると、受験指導に間に合わない！」という誤解です。

### (1) 事実から誤解を解く

まず、事実から申し上げます。今、ALを熱心に取り組んでいるのは、全国的に見ると進学校なのです。私がある高校で、府立高校で初めて産業能率大学の小林教授を招いて、AL研修を行ったとき、小林教授からいくつかAL実践の先進校を紹介してもらいました。教員に研修に行ってもらおうと思ったからです。紹介していただいたのは、

#### 三重県立津高校 岐阜県立可児高校

です。津高校は、三重県のトップレベルの進学校で、SSHの指定校です。2016年度の進学実績は、国公立現役合格176名です。一度HPを見てください。中京圏にはこだわらず、全国の大学に進学しています。それは、三重県はとてめキャリア教育が進んでいて、「自分のやりたいことを見つけて、大学に行く（大学の名前で選ばない）」教育が行われているからです。岐阜県立可児高校は、昭和55年に設立された新しい学校ですが、設立当初から進学指導に力をいれて、今では県内屈指の進学校です。2016年度の国公立現役合格は108名です。また、東大の中原教授が「アクティブ・ラーナーを育てる学校」で紹介されている岩手県立花巻北高校は、2016年度国公立現役合格は、157名です。

さらに、京都大学の溝上教授が関わっている神奈川の桐蔭学園は中高一貫の進学校ですし、今回紹介した高槻中学校・高等学校も同じく進学校です。

もうお分かりと思いますが、ALを実践して受験指導に影響が出るなら、進学校がALに取り組みません。事実が、誤解であることを物語っています。

### (2) 理屈から誤解を解く

ALは、わかりやすく言うと、講義型授業で生徒が「わかったつもり」になっているのを、外化によって内化を促進し、「わかった！」にするための術です。だから、より知識の定着が図られます。

さらに、主体的に学ぶ力を養いますから、生徒が自主的に勉強を始めるのです。例えば、前述の小林先生が、まだ埼玉県の越谷高校で物理を教えていた頃、ALを実践することにより、放課後もグループで勉強する生徒が増えたと言っておられました。講義型の時には、そんな姿は見なかったらしいです。だから、ALをすることにより、授業がどんどん進んで、学習範囲が早く終わったと言っておられました。

このように、「ALで果たして受験の力は身につくのか？」と誤解する背景には、教師の網羅主義があります。すなわち、「教師がすべてを教えなければならない」という発想です。今ではネットを開けば、そこには膨大な知識を発見できるわけですから、この網羅主義の立場に立っている限り、教師の役割はどんどんなくなっていくように思います。松下先生も、森先生もずっと強調されていた

#### 「何が本質的な問いか」「何を永続的に理解してほしいか？」

という立場に立てば、もっと教材は精選されるはずですよ。先生方の授業で使われている教材も、もっと「そぎ落とす」ことが出来る部分があるのではないのでしょうか？

ALは、生徒に学ぶ喜び、わかる喜びを実感させる授業です。その喜びがわかれば、生徒は自ら学び始めます。

#### 『主体的で対話的で深い学び』

まさしく、そういう学びができるアクティブ・ラーナーを育てることが求められています。

とにかく、大阪は、アクティブ・ラーニングの分野で「最後尾」です。これはALの分野に限ったことではなく、グローバル、英語教育、キャリア教育などなど・・・大阪の公立高校はとことん遅れています。